

昭和四年を迎へて

堀 七 藏

「日に新にして日々に新なり」といふ常套語を引出すまでもなく吾々は常に新しい氣分を以て教育に精進せねばならぬ。殊に昭和の御代に於て一層新しい元氣、新しい努力を以て幼稚園教育に盡粹せねばならぬ。元來幼稚園は最も清新の氣に満ちくた樂園であり、純眞なる教育を以て始終すべき所である。清新なる教育は幼稚園の華であり、實でなければならぬ。然るに従來やゝもすれば我が國幼稚園教育に舊態を改めず五十年前その儘の教育が行はれてゐるといふ譏を招くが如き實例が少くない。「世の文物は日に新に月に進歩してゐるが、幼稚園教育は獨り五十年前に停滞し殆ど進化の形跡を認むることが出来ない。成程幼兒は昔も今も幼兒であるから、その爲す所行ふ技理解する所に大なる相違や懸隔のあらう筈がない。しかも昭和新時代の幼兒は決して明治初年の幼兒ではない。彼等の環境は著しき變化をなし偉大なる新運を示してゐる。これ位な事實は誰も認める所である。然るに我が國幼稚園には今も尙ほ五十年前以前の保育法を、その儘そつくり昭和の幼兒に強要して得意となす保姆が少くないではないか。今

日の教育中幼稚園の保育位進歩しないものはないか。小學校教育は新しいこと珍らしいことと涉獵して變化極りなく恰も浮草の風に靡くが如くで、眞の教育が行はれるとも思はれない。がそれでも清新の氣が満ちてゐる様な感じがする。所が幼稚園教育は誠に落付いた根底のある風はあるが新しい所、研究の溢れてゐるが如き味がない。悪くいへば泰然として腰をぬかしてゐるといつた型ではないか。手足の不自由な幼児と老女性とのひなたぼつこの風がないでもない。勿論幼稚園にも新研究があらう。新しい發表もあるやうだが多くは四五十年前の蒸返し繰返しではないか。是等は悪口雜言として風馬牛に看過すべきではない。吾等は頂門の一針として大に三省せねばならぬ。殊に昭和四年の新年を迎へ日に新にして日々に新なるべき十二分の覺悟をせねばならぬ。單なる非難の聲として馬耳東風であるべきではない。眞に幼稚園教育の研究をなし深い根抵のある新しい研究をなし、幼児教育の改善進歩を期せねばならぬ。殊に幼児教育に關する各方面の意見や研究を包容し、進んで實際に基づける批判を加へ遺憾なく幼児教育の眞價を發揮することに努力せねばならぬ。敢へて昭和四年の新年を迎へるに當り世評を省みて共に――我が幼稚園教育の進歩發展を期し相共に國家の進運に貢獻せんことを誓ふ次第である。